

水戸市議会議員

# ほりえ恵子 NEWS

2016年春 創刊号

## 「だれもが輝く福祉のまち・水戸」へスタート!!

昨年春、皆様のご支援により市議会議員としての活動が始まりました。市議会では、私の専門分野である文教福祉委員会に所属し、その副委員長として職責を果たすこととなりました。

この間、本会議での質疑を通し、市民生活になくてはならない「安心」をつくることを提案しておりますが、水戸市が中核市への移行を間近に控える中で、次の3点を特に力を入れて取り組みたいと思います。

1点目は、**子どもへの虐待防止**です。私は児童福祉の現場で43年間働いてまいりましたが、今

なお声も出せずに暴力・虐待を耐えている子どもたちを一刻も早く保護し、その大切ないのちを守らなければならぬという思いでいっぱいです。母子健康手帳の交付や乳幼児健診の訪問など、あらゆる保健行政の機会を通じて、児童虐待の予防と早期発見ができるしくみを目指します。

2点目は、**子育て支援の充実と待機児童の早期解消**です。水戸市は、保育所に子どもを預けるための順番待ちが県内最多です。無認可の保育所に子どもを預けてパートで働くお母さんは、その子どもの保育料を支払うだけで精一

杯の生活となってしまう、「一億総活躍」できるような現状ではありません。市では毎年新たな保育所を認可し増設していますが、認可・無認可を問わない保育環境の整備や、病児・病後児・障がい児も安心できる保育の拡充を目指してまいります。

3点目は、**高齢者福祉政策の充実**です。水戸市では、市民の4人に1人が65歳以上であり、おひとり暮らしや高齢者のみの世帯、あるいは認知症の方などが増加しております。健康寿命を延ばし、元気に仕事や地域活動など、社会のあらゆる場面で活躍で

きる環境をつくることはもとより、病院・介護施設・行政が連携した地域包括支援システムをつくり、衣食住と医療など生活全般にわたりその個人が尊重される地域福祉づくりを目指します。

今後とも生活者である市民の皆様の声を大切にし、「だれもが輝く福祉のまち・水戸」をつくるため全力を尽くしてまいりますので、ご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



### プロフィール

1951(S26)年 水府村(現常陸太田市)天下野生まれ。  
1971(S46)年 茨城県立太田一高卒業。  
その後、日赤茨城県支部乳児院で子どもたちの養育に43年間従事。2015年4月 水戸市議会議員に初当選。文教福祉委員会副委員長。  
趣味は、お遍路めぐり、パレーボール、読書。城東1丁目在住。

市民の皆様からの  
ご要望・ご相談をお待ちしています  
お気軽に…

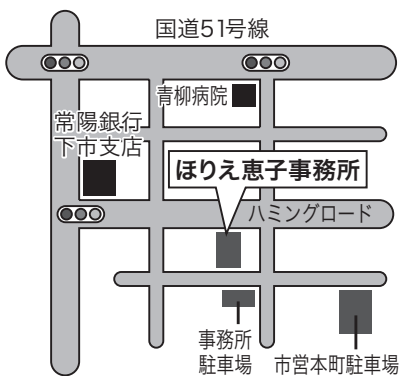
### ほりえ恵子事務所

〒310-0815 水戸市本町1丁目10-11

TEL 029-303-1255

FAX 029-303-1260

ホームページ <http://www.horiekeiko.net>  
e-mail : [horiekeiko@horiekeiko.net](mailto:horiekeiko@horiekeiko.net)



# ほりえ恵子 議会報告



ほりえ恵子は、水戸市民のいのちと生活を守る立場から、全ての議会の本会議で質問を行っております。

## 2015年6月議会 (一般質問)

### 1 虐待防止の取り組みについて

- (1) 児童虐待防止について
- (2) 高齢者虐待防止について

### 2 保育行政について

- (1) 待機児童解消について
- (2) 病児・病後児保育について

### 3 水戸市男女平等政策について

- (1) ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取り組みについて

## 2015年9月議会 (代表質問)

### 1 コンパクトシティ政策について

### 2 中心市街地活性化計画の進捗について

### 3 高齢者の運転免許証自主返納支援について

### 4 交通バリアフリー政策について

### 5 観光行政について

### 6 首都圏の高齢者地方移住推進について

### 7 待機高齢者の解消について

## 2015年12月議会 (一般質問)

### 1 消防行政について

- (1) 住宅用火災警報器の設置について
- (2) 小中学校の火災感知器設備と避難訓練について

### 2 原子力行政について

- (1) 日本原電との安全協定見直しと東海第2原発の再稼働をすべきではないことについて
- (2) 原発事故に伴う広域避難計画の策定について
- (3) 安定ヨウ素剤の市民への事前配布について

### 3 救急行政について

- (1) 救急出動の状況について
- (2) 外国人への救急対応について

## ほりえ恵子の視点

### ほりえ恵子の視点

水戸市が直面する大型公共事業をどう考えるか



▲新市庁舎の設計外観

いま、水戸市では、4大プロジェクト事業が進められ、議会で議論を重ねています。

1. 新市役所庁舎(約204億円)
2. 新市民会館(約263億円)
3. 東町新体育館(約103億円)
4. 新ごみ処理施設(約460億円)

なかでも、東町運動公園の新体育館整備は、当初計画の80億円から23億円以上増加することが10月16日の特別委員会に報告されました。

また、新市民会館整備についても、当初市が策定した基本計画では180億円から192億円の事業費とされていたものが、11月10日に市議会へ報告された事業収支計画では263億円とされ、大幅に上方修正されました。

従来は安い使用料で利用できた市民会館の早期開館を希望して

いる市民の方々は、多数おります。議会では、県都・水戸には全国大会や国際会議を開催したり有名アーティストを呼べるホールがないとか、何十年も使う施設をどうせ造るなら良いものをという意見も出されています。

しかし、果たして全国大会や国際会議、東京の武道館をいっばいにするアーティストのコンサートが年に何回水戸で開催されるでしょうか。さらに、ビッグイベントを開催したとき、300台しか収容できない駐車場(予定)で対応できるのか、渋滞緩和策は考慮されているのか、ホテルなどの宿泊体制は万全かなど、まだまだ検討課題は山積です。

また、建物は造るだけでなく、それを維持するコストがかかります。現在27万人の水戸市の人口は、今後減少していくことが予想される中、他の公共施設も含めた維持管理コストの負担能力も見極めるのかをここで一度立ち止まり、納税者・利用者である市民の声を聞き、市議会のチェック機能を果たしていく考えです。



▲本会議で質問するほりえ恵子